

令和3年度事業報告

令和3年度事業計画（令和3年4月1日～令和4年3月31日）に基づき実施した事業の概要について報告する。

1 総括（新体制の構築、新型コロナウイルス対策の推進等）

昨年度は、令和3年5月26日、令和3年度定時総会の役員改選及びその後の理事会において田崎真弓新会長以下の新体制がスタートした。

また、事業面では、新型コロナウイルス感染予防の観点から全警協が策定した「感染予防ガイドライン」の遵守を始め、例年実施している各種施策を大幅に縮小した反面、警備員不足解消を目的にした福井労働局及びハローワークとの連携強化、「警備業における適正取引推進等に向けた自主行動計画」の活用による労務単価向上対策等を強力に推進した。

さらに、教育事業については、指導教育責任者講習講師と特別講習講師について委嘱更新及び増強等を行い、警備員教育の更なる充実を図った。

2 組織の充実強化

(1) 会員数

ア 正会員

58社（令和4年3月31日現在）（※ 令和4年4月1日現在 59社）

令和3年度中、新たに4社が入会したことにより、令和4年3月31日現在、正会員数は58社である。

組織の基盤を強化するため、今後も、労務単価の向上を始めとする勤務環境の改善等に努めつつ勧誘活動を促進していく。

（令和4年3月31日現在）

	4 条 業 者	9 条 前 段 業 者
県内業者数	61 社	26 社
協会加盟社数	44 社	14 社
協会加盟率	72.1%	53.8%

(2) 業界連携

ア 全国警備業協会及び他県協会との連携

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の推進を始め、警備業務の適正な実施、暴力団等反社会的勢力に関する情報収集や排除活動の推進、「11.1 警備の日」の広報活動への取組等に関する連絡調整や各種アンケート

ト調査、特別講習等教育事業の効果的な推進等を通じ、会員と全国警備業協会等との間で緊密な連携を図った。

イ 業界会議等への出席

業界の当面の諸課題等を協議するため、次の会議に参加した。

月日	場所	会議の名称	備考
7. 5	東京都	全警協教育委員会	会長 Web 会議
7. 7	東京都	全警協専務理事等会議	専務 Web 会議
8. 3	東京都	全警協教育委員会	会長 Web 会議
9.18	東京都	全警協教育委員会	会長 Web 会議
11. 4	東京都	「警備の日」全国大会	専務 Web 会議
11.15	石川県	秋季中部地区警協連合会会長等会議	会長、専務 出席
2. 初旬	富山県	北陸3県会長等会議	会長、専務 書面議決
2.10	東京都	全国警備業協会事務担当者会議	主事 Web 会議
2.21	東京都	全警協教育委員会	会長 Web 会議
3.22	富山県	青年部会研修会	長谷川理事、専務 出席

(3) 会議・委員会等の開催

各種事業の効果的な推進を図るため、委員会等を開催（出席）した。

月日	場所	会議の名称	協議事項等	備考
4. 下旬	協会	公安委員会受託講習講師担当者会議	・令和3年度指教責講習等の講師委嘱と推進要領の協議	書面
5. 初旬	協会	第1回総務委員会	・理事会上程案件の協議	書面
5.19	協会	第1回理事会	・定時総会上程議案の承認	書面
5.26	県民ホール	令和3年度定時総会	・R2年度事業報告の可決 ・R2年度収支決算報告の可決 ・R3年度事業計画(案)の承認 ・R3年度収支予算(案)の承認	定足数 充足
5.26	県民ホール	第2回理事会	・会長、副会長、専務専任	理事
5.27	県立図書館	県防犯協会総会	・総会議案の承認	書面
5.28	葵分庁舎	暴追センター理事会	・理事会案件の審議	書面
6. 2	県庁	県安全安心まちづくり推進会議	・県内の犯罪情勢 ・当協会の取組	会長

6. 28	国際交流会館	テロ対策パートナーシップ推進会議	・国内外のテロ情勢 ・テロ防止の着眼点等	専務
7. 1	葵分庁舎	暴追センター理事会	・理事会案件の審議	専務
11. 12	ハートピア春江	暴力団追放福井県民坂井大会	・暴力団追放決議	専務
11. 中旬	協会	労務委員会	・令和3年度「労働災害防止応募作品」の審査	書面
2. 中旬	協会	教育委員会	・R4年度講習計画等	書面
3. 1	商工会議所	北陸新幹線講演会	・北陸新幹線をめぐる情勢 ・今後の展望等	会員
3. 4	国際交流会館	暴追センター理事会	・理事会案件の審議	専務
3. 初旬	協会	第2総務委員会	・第3回理事会上程案件の協議 (令和4年度事業計画(案)及び令和4年度収支予算(案))	書面
3. 10	合同庁舎	人材確保対策推進会議	・福井労働局との協議	書面
3. 中旬	協会	第3回理事会(予算)	・令和4年度事業計画(案)の審議 ・令和4年度収支予算(案)の審議	書面

3 適正警備業務の推進

警備業務の実施の適正を図るため、全国警備業協会、監督官庁の県公安委員会（県警察本部）、労働局、労働基準監督署等との緊密な連絡体制を維持し、関係法令の解釈・運用並びに適正警備業務の実施に関する指導・指示を受け、その都度、これを迅速かつ適切に会員宛てに周知伝達したほか、労災事故防止、経営者研修会等の開催、暴排活動への積極的な取組等を推進し、適正業務の実施に努めた。

4 社会的地位向上事業の推進

(1) 警備員教育の充実

警備員の知識技能の向上を図るための「協会が行う現任教育」は、令和3年度中、基本教育（4時間）を2回、業務別教育（6時間）を4回（施設警備業務（1号）2回、貴重品運搬警備業務（3号）2回）の計6回実施した。

教育種別	実施月日	受講者数	備考
基本教育	4月15日(木)	12名	
	9月9日(木)	8名	
業務別教育 (1号)	6月3日(木)	15名	
	11月11日(木)	18名	
業務別教育 (3号)	5月15日(土)	19名	
	11月13日(土)	12名	
計	6回	84名	

(2) 教育幹部等の育成

ア 特別講習現任講師の更新

特別講習現任講師20名全員が資格を更新した。

イ 特別講習新任講師候補者研修会への派遣

新任講師候補者研修会に受講者を派遣し、以下の3名が新たに特別講習講師として委嘱された。

氏名	所属事業所	種別
島田 幸治	(株)アイビックス	施設警備業務2級
内藤 慎之介		貴重品運搬警備業務2級
伊藤 慎太郎		

(3) 労災防止対策の推進

ア 福井県警備業安全衛生大会の中止

新型コロナウイルス感染予防の観点から令和4年第18回福井県警備業安全衛生大会については開催を中止した。

イ 福井県警備業協会第13回(令和3年度)労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクールの実施及び入選作品の表彰

警備員の災害防止に関する意識の改革・浸透を図るため、啓蒙ポスターの掲示を促進したほか、福井県警備業協会第13回(令和3年度)労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクールを実施し、多数の応募作品の中から優秀

作品（ポスターの部2点、標語の部3点）を選考。入選者を表彰し、労働災害防止に対する意識の啓発と安全意識の更なる高揚を図った。

5 地域安全確保活動

(1) 県安全安心まちづくり運動への参加

福井県及び県警察が提唱する「安全安心まちづくり推進会議」に積極的に参画し、推進旬間中に京福バスの車両前面に「11. 1 警備の日」を周知するための広報幕の掲出や、巡回車に防犯広報用マグネット・シールを貼付して視覚に訴える広報活動、会員事業所による児童の登校時間帯における見守り活動等を展開した。

(2) 大規模災害を想定した部隊編成訓練の実施

令和3年11月に実施された中部管区広域緊急援助隊訓練は、開催地が三重県であったため、同訓練への当県からの参加はなかった。

(3) 暴力団等排除対策活動の推進

当協会は、昭和57年の警備業法改正以降、警備業からの暴力団排除を重点施策として掲げ、取り組んでいる。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から暴排担当責任者（不当要求防止責任者）講習会の開催を見合わせた。

11月に坂井市内で開催された「暴力追放福井県民坂井大会」には、主催者からの要請により専務のみが出席した。

(4) 関係機関、団体等との連携及び支援活動の推進

福井県、県警察が主催する会議や県暴力追放センター、県防犯協会等に対する活動支援及び協力を行ったほか、福井労働局との連携を密にし、警備員の募集活動を積極的に推進した。

また、県内で発生した業務災害事故に関し、福井労働基準監督署と連携し、労災事故の絶無を期すための指示文書を発出して会員の意識向上に努めた。

6 警備員等の確保（定着）事業の推進

(1) 警備業界のPR

ア 「警備の日」の周知活動

全国警備業協会が提唱する「警備の日」の取組の一環として、福井県安全安心まちづくり推進旬間と「警備の日」までの期間を含む10月から11月

の間、福井市内路線バス（８台８路線）の車両前面に「１１月１日は警備の日」と書かれた広報幕を掲出し、県民の目に留まる形での広報活動を展開した。

イ 労働局主催の雇用対策への参画

深刻な警備員不足に対応するため、福井労働局との連携を密にし、今後の取組方法について協議した。

ウ 機関紙「警協ふくい」の発行

部内機関紙「警協ふくい」１００部を年２回（夏季号・新年号）、部内外に発行し、業界内の動向を報じた。

(2) 警備員の士気高揚

ア 警備業功労者等の表彰（令和３年５月２６日付け）

（敬称略・順不同）

表彰の種類別	氏名	年齢	警備業者名
感謝状 （指教責講師功労）	斉藤 省三	71	元 (株)アイビックス
永年勤続者表彰	大久保 礼三郎	52	(株)アイビックス
	竹澤 幸博	63	〃
	高嶋 敏之	48	〃
	稲葉 智宏	44	〃
	山口 安正	55	(株)ナスカ敦賀支店
優良警備員表彰	森石 健一郎	48	(株)アイビックス
	油井 宏樹	44	〃
	北野 信介	42	〃
	中村 光之	49	〃
	田中 和昭	57	北陸総合警備保障(株)福井支社
	米田 研司	63	〃
	渡辺 賢俊	35	〃
	居関 博也	50	(株)オーイング
	高橋 忠司	38	〃
	古谷 和浩	55	〃
	深見 哲也	49	(株)ナスカ敦賀支店

	塚村 透雄	5 7	〃
	山田 隆大	3 5	〃
	上田 幹雄	6 3	(株)アイゼン
	中東 善大	3 9	(株)アイワン
	高原 勝美	6 6	(株)ニッコーピーエス

イ 令和3年度健康増進ボウリング大会（昴会主催）
新型コロナウイルス感染予防の観点から開催を中止した。

7 職場環境の改善施策の推進

令和3年度は、警備員の確保対策として、福井労働局との連携を密にし、業界のアピールと警備員募集に努めた。

その他、各種表彰の上申をはじめ、労働災害防止「論文・ポスター・標語」コンクール等による労災事故防止意識の啓発向上を通じ、職場環境の改善を促した。

8 経営者・幹部研修会等の開催

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から各種研修会等の開催を中止した。ただし、全警協を始めとする関係機関等からの通知文書の配布等を通じて、経営者・幹部職員としての見識と資質の更なる向上を図った。

9 特別講習事業の積極的な推進

(1) 北陸3県特別講習講師合同研修会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、石川県内で開催予定だった中部地区特別講習講師合同研修会（北陸3県のブロック開催）は中止された。

(2) 特別講習開催状況

特別講習は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、次表のとおり計7回開催（交通誘導警備2級2回、施設警備2級2回、施設警備1級1回、貴重品運搬2級（北三共催＝石川開催）1回、雑踏警備2級（北三共催＝富山開催）1回）した。

受講者総数 255 名（前年比+90 名）、合格者数 189 名（前年比+70 名）、1・2 級の平均合格率は 74.1%（前年比+2.0 ポイント）だった。

種 別 実施日	受講者数	合格者数	合格率
交通 2 級 (1 回目) R3. 4 / 3・4	4 5	3 3	73.3%
施設 2 級 (1 回目) R3. 6 / 26・27	4 4	3 8	86.4%
貴重品 2 級 (北三共催) 石川 R3. 6 / 26・27	2 6	2 1	80.8%
交通 2 級 (2 回目) R3. 7 / 3・4	4 6	3 8	82.6%
施設 1 級 R3. 10 / 2・3	4 1	3 3	80.5%
雑踏 2 級 (北三共催) 富山 R3. 10 / 9・10	1 2	1 1	91.7%
施設 2 級 (2 回目) R3. 11 / 6・7	4 1	1 5	36.6%
計 7 回	計 2 5 5	1 8 9	74.1%
	1 級 4 1	3 3	80.5%
	2 級 2 1 4	1 5 6	72.9%

10 警備員指導教育責任者等講習の実施

公安委員会から委託された警備員指導教育責任者講習(1～4号)及び機械警備業務管理者講習を次表のとおり計5回実施した。

受講者総数 55 名 (前年比+5 名)、合格者総数 45 名 (前年比+1 名) で、平均合格率は 81.8% (前年対比-6.2 ポイント) だった。

講習種別		実施期間	受講者数	合格者数	合格率
1号	新	6/7～6/15	24	17	70.8%
	追	6/10～6/15	5	5	100.0%
2号	新	6/28～7/5	7	4	57.1%
	追	7/1～7/5	4	4	100.0%
3号	新	10/12～10/19	1	1	100.0%
	追	10/15～10/19	2	2	100.0%
4号	新	10/12～10/18	2	2	100.0%
	追	10/15～10/18	2	2	100.0%
機械管理		9/15～9/21	8	8	100.0%
計			55	45	81.8%

令和3年度労働災害防止
標語等コンクール入選者

【ポスターの部】

特選

タイトル：あなたのそのヨシ 本当に良し！？
安全は 正しい身だしなみから。

小林 寛和 氏 太平ビルサービス(株)

準特選

タイトル：油断 禁物

吉崎 緑里 氏 (株)ナイガイ

【標語の部】

特選

安全は 人に頼るな まかせるな 一人ひとりが 責任者

吉岡 美咲 氏 (株)オーイング

準特選

思い出せ あせったあの時 あの瞬間

清水 宏祐 氏 福井ビル管理(株)

労務委員会委員長賞

時間ない 焦りとイラだち 事故の元

畑 中 弘 和 氏 (株)エスライン